

産婦人科の未来予想図

—これから必要な技術，資格について

企画者のことば

吉野 修

日本の出生数は年々減少し、2025年には68万人を割る可能性が指摘されています。分娩数が減少するなかで、「産婦人科は縮小していく診療科なのでは？」と不安を抱く医師や研修医も少なくありません。しかし、それは本当に正しい見方でしょうか？

私たちは産婦人科こそ、未来に向けて大きな可能性を秘めた診療科であると考えています。分娩数の減少は、単に産婦人科の縮小を意味するのではなく、医療の質を高める機会となり、新たな役割が求められる時代の到来を示しています。プレコンセプションケアはもちろんのこと、周産期医療の充実、婦人科疾患の増加への対応、生殖医療の発展、女性ヘルスケアの強化——産婦人科はこれからますます多様な分野で活躍できるフィールドを広げていくでしょう。では、この変革の時代に、私たち産婦人科医はどのように未来を切り拓くべきでしょうか？

本特集では、産婦人科の各分野のトップランナーたちが、これからの10年・20年を見据えた未来予測を語ります。さらに、未来に求められる技術や資格、キャリア形成の指針を示し、若手医師がどのように成長していくべきかを明らかにします。内容は多岐の分野にわたり、現状の理解はもちろんのこと、未来の産婦人科学のあるべく姿を明確に示した特集になったと思います。この場をお借りして執筆者の方々に御礼申し上げます。

産婦人科は、女性の生涯に寄り添い、社会の変化に柔軟に適應しながら発展する診療科です。少子化が進む今だからこそ、産婦人科医が果たすべき役割はますます大きくなっています。本特集が、皆様にとって未来への指針となり、産婦人科医としてのキャリアに誇りと希望をもつきっかけとなれば幸いです。